暑　さ

暑さは気温のほかに湿度が関係することは誰でもが知つていることである。しかし，今日は暑いから湿度は何％だろらという人はめつたに居ない。

世界各地の暑さ調べといつても，この小さな島国から1歩も踏み出すことのできない者にとつては，ただ数表の上だけで想像するほかはないが……

1年を平均して，気温の高いのは，サイゴン(27.5度)マニラ(26.4度)カルカツタ，シンガポール(26.3度) ホノルル (24.0度)といつたところである。これらの土地はいづれも，月平均最高の気温を示すのが4月か5月となつている。(ホノルルだけは8月)バクダツトなどは7月の平均気温は34.9度と世界でも最高度の気温を示すが，1方7月の湿度は何と1％である。ヨーロツパは年平均10度たらず，夏期でも20度たらず，湿度は東京なみであるが，この程よい気温の関係で，夏でもネクタイにワイシヤツというあの洋服スタイルが発達したのだそうだ。

登録自動車

毎度自動車の話で恐れ入るが，わが国の自動車のふえ方はこのとけろ驚ろきである。わが国の自動車登録台数は昭和22年から昭和34年の間に約15倍にふえているが，世界総数ではこの間約2倍しかふえていないのであるから，わが国の自動車ブームがいかに激しいか分かろうというもの。

本県の登録自動車は昭和26年が 6,623台で35年3月には 29,156台となつている。4.4倍である。交通地獄の東京では，26年が84,956台，34年490,306台ざつと5.8倍のふえ方。日本全国では26年531,570台，33年2,398,815台で4.5倍の増加である。

世界には何台程自動車があるのか。昭和32年の統計では，乗用車81,940千台，貨物自動車，バスなどの商業用車が22,030千台とある。

しかし，わが国の場合，自動車ブームといつても小型四輪トラツクと，軽自動車の増加が目立ち，それは本県においても同様である。

縦軸

横軸

林野面積

土地の種目別面積からいくと，本県は耕地面積が多く，府県別に見て田は全国第10位，畑は全国第3位の広さであることは前に書いた。これから考えて本県の林野面積は当然少いだろうということになるが，昭和32年の統計では，全国で下位から9番目で221,758ヘクタールとなつている。全国の総林野面積が24,791,747ヘクタールであるから，その1パーセントにも満たないわけだ。

林野面積の広い方から拾うと，北海道5,569,368ヘクタール，岩手，長野，福島など。少い方は大阪の66,466ヘクタール，東京都，香川の順である。

本県の林野面積を種類別にみると，針葉樹林の人工林が108,847ヘクタールで全面積の半ばを占め，経営形態別では，個人営が161,395ヘクタールとなつている。昭和34年の本県の造林面積 は3,300ヘクタールで，これも府県別に見ると少なかつた。

降ひよう

さる6月6日，雷雨に伴つた降ひようが，本県のかなりの地域に被害を与えた。ことに西茨城郡友部町を中心とする地区では鶏卵よりやや大きいこぶし大長経最大8cmのひようがまじつて10分間くらい降り，このため友部町立小学校では屋根瓦 1,500枚，窓ガラス579枚が破損した。

一体農作物に被害を与える程度の降ひようは何月頃に多いだろうか。戦後の本県の統計を見ると，昭和23年以降15回のうち，4月が2回(14日，22日)5月は4回（15日，28日2回，29日）6月は8回（4日2回，5日，10日，14日，15日，21日，22日）7月が1回（9日）となつている。

降ひよう区域は県下殆どの部分にわたつているが太平洋岸と，稲敷郡，行方郡は比較的降ひようはないようである。

—水戸地方気象台資料から—

新市町村の横顔

新治郡
櫻村

藤沢村長

1. 概況

本村は茨城県のほぼ中央にあり，新治郡では最西部に位置し東は土浦市，西は筑波郡大穂町南は同郡谷田部町，北は新治村にそれぞれ接している。面積は34.95km²，人口9,294人(男4,537人，女4,757人)，世帯数1,822—昭和35年5月末現在—の純農村である。

昭和30年7月22日，旧栄村，九重村，栗原村の3カ村が合併して，この桜村が出来たが，新村名の「さくら」が，栄の「さ」と九重の「く」，それに栗原の「ら」によつて旧村名を代表していることは境こじつけにしてもうまく出来たものである。新治村とのを流れる桜川は，謡曲「桜川」で有名とあるが，河川改修により堤防の作りなおしで，現在では貧弱な桜の並木が辛うじてその面影を止めているに過ぎない。

土浦で国鉄バス南筑波線に乗り約25分で常陸栄駅に着く。村役場はここにある。庁舎の建設は1番あと回しとの事で，昭和40年頃には新築の見込があるが，現在は新村の表看板にしてはお粗末な庁舎である。しかし，庁舎ばかりが立派に出来たというよりも，本村のような行き方もまた立派でいいと思う。

2. 産業

村の中央を東西に貫く背骨状の県道を境として，東部は桜川南岸の低地となり，西部は台地となつている。この村は本県でも地力が非常に高いところで，ことに旧栄村地区は何を作つても良く出来るので，6，7年前に米麦から野菜栽培に切りかえ，野菜の生産では関東へと自他共に許す野菜の村となつた。それは生産量が多いというよりも，良質のものが出来る点で有名で，例えば，ここで出来る白菜はまつ白で繊維がなく，他処で生産されたものとは比べものにならないという。しかし，残念なことに耕作面積が狭いので，連作が続き，病気が入つて，最近は白菜の生産地は旧九重の方に移つてしまつた。

野菜に代つて，現在は花つくりが盛である。ビニールハウスといつて，ビニールで囲いをした中に，秋菊，夏菊，寒菊，チユーリツプ，カーネーシヨン，フリージヤあやめ，ゆりといつた草花を美しく栽培いる。1軒平均で66m²から132m²を栽培し，村全体で7260m²のビニールハウスがある。年間の出荷額は1,200万円で，主にトラツクで東京に出荷している。

今年2月実施された世界農林業センサスの準備調査の結果集計によると，村の農家数は1,490である。同月の全世帯数は1,822であるから，8割強が農家ということである。ちよつと変つているのは，この村には大学卒のお百姓さんが多いことだ。それと関連してか，農家に電話加入者が多い。結局，農家が裕福であり，インテリであるところから，ビニールハウスの花栽培とか，かつてはビニールトンネル栽培法による野菜の半速成栽培とかいつた進んだ農業経営に踏み切ることが出来たのかも知れない。

村の耕地面積は田632.4ha，畑818.5ha，樹園地118.4haとなつている。主産物は半麦の外，甘しよ，タバコ，繭，トマト等，さらに32年頃からぶどう，なしの栽培も始まつた。昭和33年の統計では，とうもろこし（乾燥種実）の収穫は680トンで県下一である。畜産では乳牛と豚の飼育が盛である。

3. 教育文化

新村合併後，各種事業は活発に行われた。教育面では昭和34年に工費1,860万円で鉄筋3階建の統合中学校が完成した。来年は予算1,000万円で特別教室を作る予定である。又昭和33年には栄小学校に併設して村営の幼稚園が作られた。収容人員が100名で，ここもお隣りの大穂町同様，スクールバスで園児の送り迎えをしている。今年は，小学校を3教室増築することになつている。

新しい栄村の建設基本計画はすでに出来上つて，いまそれに基く年次実施計画を作成中である。考えられている新村計画を並べて見よう。

常磐線の電化と，土浦市の衛星都市指定により，土浦市から6キロしか離れていない本村の工場誘致は積極的にやらなければならない。

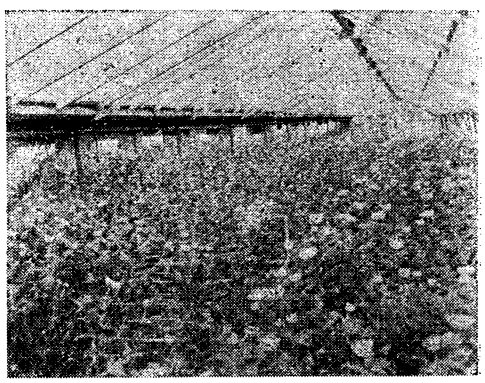
灌漑排水の土地改良により農地を集団化する。そして農業経営を一つの企業化し，農業人口をサラリーマン的な性格に転化させる。

九重，栗原地区は養蚕地域だから桑園の改植と養蚕組合の育成をする。桑園はふやさずに，桑の品質改善による収繭量の増加という方向に切換える。

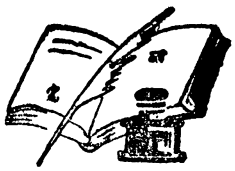
農産物の流通部門を強化するため，本村の出荷団体を統合して一元化する。農協の統合も促進する。

有線放送は，現在九重と栄と二つの農協で別々にやつているのだが，これは不便だから施設の統合を考えている。

本年の村の当初予算は4,551万円であるが，本村には村有財産が何一つないので，何か事業をやろうとすれば何でも起債に頼るほかはないので，いつになつても楽にならないとは藤沢村長の話である。しかし，この手腕に優れた村長を持つ桜村の発展は，良く期待することが出来よう。



（ビニールハウスの花栽培）



随　筆

サ　ラ　リ　ー　マ　ン

商人の子弟

この頃は商人の息子も，たいてい大学に出るようになつた。昔は，あきんどの小せがれに，なまじつかな教育は毒とあつて，せいぜい商業学校を出ると，すぐさま家業につく息子が多かつたようだが，最近は違う。

これからの商売は頭がないとやつて行けないと，ただ金儲けだけがうまかつた親御が考えて，その息子に学問を授けるようになつたのは大いに結構な話だし，大学を出て来た息子が，親父のやり得なかつた新しい経営法を試みるのもまた賛成である。

しかし，商人の息子がたいてい大学に通うようになつたというこの傾向は，ただ単に，商人の目が開けて来たとだけいつてしまえないものがある。

昔の中学校からすぐ大学へ入るような，いわゆる6，3制の教育制度が，大学教育への門戸を押し広げたこともあろう。（たとえ，その為に大学への入学が難しくなつたにせよ。）しかし，それよりももつと肝心なことは最近では子弟を大学にやるには，商人ででもなければ金が続かないという事である。これは勿論いい過ぎであろう。だが，地方から東京の大学へ子弟を出すには，普通のサラリーマンでは中々できないというのは事実のようである。

サラリーマンの多角経営

昔は糸ヘンだけを扱つていた商社が金ヘンにも手を出したり，薬品メーカーが，化学肥料も作り始めるといつた多角経営は，その企業の安定性のためにも，また企業の収益を増すためにも，近代的な経営方法であろう。

ちか頃街を歩いて気付くのは，呉服屋が喫茶店を兼営したり，写真屋がその店の片隅で煙草を売つていたり，酒屋が裏手でバーを開いていたりする，商人の多角経営である。中には本業だけで人に抜きんでた資産を残しながら，それでもなお不足なのか新たに儲け口を作つている，いやな感じのやつもいるが，しよせん人間は欲の皮の厚いやつでこれは仕方がない。

ところがサラリーマンの多角経営はこれとはちよつと意味が違う。内容はもつと悲そうである。男の一本腕では食つて行けないのである。月給だけでは家族が養つていけないのだ。（例外はもちろん多い。）家が農家であるとか，家で商売をやつているとか，奥さんが共稼ぎであるとか，内職をやつているとか，サラリーマンの多角経営もだんだん目ざましくなつて来たが，もつと何かスカツとした方法はないものか。株を買つて経営に参加する，なんてことでなしに――。

月給取りと統計

統計，統計とずいぶん宣伝しているので，統計利用者もずいぶんと増えている。最近は民間の利用者が多いのが目立つている。しかし，その利用者の殆どが名のとおつた大会社であるというのは，統計というものの何か一面を語つていないだろうか。月給取りが官庁統計を利用したという話はあまり聞かない。ただこんな話が一つある。ある会社の労働組合の執行委員長が，退職金の支給率の問題で会社側と戦うために，官庁統計の助けをかりたというのである。その会社は小さな会社であつたが，重役に大学出の偉いのがいて，その執行委員長は統計のトの字も知らぬ田舎親父であつたそうだ。交渉の結果はまあまあという所に落着いて，その委員長に官庁統計を紹介した男はずいぶん感謝されたというから，統計も満更捨てたものでもない。

私の知人の父親は現在60才になる給料取りだが，趣味が競馬で，昔10年程続けて競馬のレースの統計をとつていたことがある。たとえば，Aという馬は天候晴，馬場良，ハンデ何キロ，何頭だて，何米のレースの時は何着だつたかの記録の統計である。このえんま帳ともいうべき統計を駆使して予想を立てるわけだが，残念なことにこの統計はあまり彼には益しなかつたようである。ただ神の御名において救いの言葉をいうならば，彼はこの統計表を作ることに非常な熱意を示し，それを作つている間，一種の恍惚境にあつた。ああ統計なるかな。

（良）